

市内で外来種の防除活動を実施しています

オオキンケイギク (特定外来生物)

5~7月にかけて黄色い花を咲かせます。種を撒き散らさないよう根こそぎ駆除しています。市内各所で住民参加による駆除活動を行っています。

恩田川・発杭川の堤防で駆除を実施。環境教育・社会貢献活動の一環として地元企業も参加しました。

道路の路肩や境川の堤防で駆除を実施。婦人会や地元の大学生も参加し地域で一体となり実施しました。



▲刈谷環境支援員の会 (左)、井ヶ谷町内会 (右) による駆除活動

ミシシippアカミミガメ (緊急対策外来種)

地元住民や地元企業、大学の協力のもと、市北部地域の池にわなを仕掛けアカミミガメの駆除を実施するとともに、生態系への理解を深める学習会などを実施しています。

南池などで毎年実施。多い年は90匹を超えるアカミミガメの駆除をしました。

「産学官民」が連携して実施する先進的な取組として、全国的にも注目されています。



▲西三河生態系ネットワーク協議会、東境土地改良区などによる駆除活動

アライグマ (特定外来生物)

近年、市内全域で目撃情報が多く寄せられ、急速に数が増えています。刈谷市ではアライグマの被害を防ぎ、生息数を増やさないよう、箱わなによる捕獲を実施しています。



市内のアライグマによる被害は、屋根裏への侵入やトウモロコシやスイカなどの農作物の被害が多くあります。

猟友会と連携し、アライグマの通り道を調査し、箱わなを設置します。

⚠

アライグマの目撃情報をお寄せください

環境推進課 (☎62-1017)

~外来種を増やさないためにできること~ 外来種被害予防3原則

① 入れない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を本来分布しない地域へ「入れない」

きれいなお花。持ち帰って植えたいな。



② 捨てない

飼育、栽培している外来種を適切に管理し「捨てない」

思ったより大きくなった。池で元気に暮らしてね。



③ 拡げない

すでに野外にいる外来種を他の地域に「拡げない」



①むやみに持ち込まない! ②ペットは責任をもって最後まで飼おう!
③知らないうちに外来種を運んでしまうこともあるので、注意しよう!



刈谷でよく見られる外来種



アライグマ

水辺や畑、市街地に生息。雑食性で畑の果物や野菜を食べ、屋根裏に住み着くなどの被害がある。



オオキンケイギク

路肩や河川敷、畑などに生育。繁殖力が強く在来の植物と競合して自然環境を大きく変えてしまう。



ミシシippアカミミガメ

川や池に生息。繁殖力が強く在来のカメの居場所を奪う。



ヌートリア

川に生息。草食性で水生植物のほか稲や野菜などを食べる。



ウシガエル

池や水路に生息。肉食性で昆虫、魚類、在来種のカエルなど何でも食べる。



スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

水田や水路に生息。繁殖力が強く植物の新芽や稲の苗を食べる。



セアカゴケグモ

メスのみ毒を持っており、おとなしく攻撃性はないが、触ろうとすると噛まれることがある。



アメリカザリガニ

川や水田に生息。昆虫、魚類、水生植物、在来のザリガニを食べる。

私たちの住む刈谷市には、人間のほかにもさまざまな生きものが関わり合いながら生きています。この生きものたちの豊かな個性とつながりを生物多様性と呼んでいます。しかし今、この生物多様性が失われつつあります。その原因の一つが外来種です。もともといなかった生きものが持ち込まれることで生態系にさまざまな問題が生じているのです。 環境推進課 (☎62-1017)

外来種は悪者なの?

外来種は、もともと自然にいなかった場所に人が持ち込んで定着し、繁殖したものです。外来種が悪いと安易に考えるのではなく、適切に管理し新たな外来種を作り出さないことが大切です。

外来種による問題とは?

- ▶ 在来種を食べたり攻撃をしたりします。
- ▶ 在来種の住む場所、エサなどを奪います。
- ▶ 農作物を食べ、田畑を荒らします。
- ▶ 在来種と交雑し雑種を作ります。
- ▶ 毒を持ち人に危害を与えます。
- ▶ 家屋に侵入しペットを攻撃します。

【刈谷市環境キャラクター】



生物多様性の大切さを伝える生物多様性キャラクター応援団の団員。

